

文化講演会が開催されました

広さ深さ多様性の「インドの魅力」に触れた一日でした

3月18日(火) 2024年度文化講演会がプラッツ習志野市民ホールで開かれました。今回は「インドの魅力」をテーマに3部に分かれての内容でした。

会場のロビーには、インド大使館から提供された工芸品、伝統衣装、観光パネル、パンフレット、習志野市に寄贈された書籍などが展示されて、インドの雰囲気を作って来場者を客席へ誘っていました。

第1部は在日インド大使館ヴィヴェーカーナンダ文化センター所長のカニカ・アガーワルさんの講演でし

た。ステージの大スクリーンを使った画像とともに、宗教、歴史、言語、科学技術、発見、教育、お祭り、料理、舞踏、服装、観光、スポーツなどなど、長い歴史と広い国土、そして多くの民族による多様性に富んだ文化を説明してくださいました。英語による説明でしたが、同行スタッフによるていねいな通訳でわかりやすかったです。インドと日本は仏教を通して古くから深いつながりがあり、今後も相互理解をさらに進めることの必要性を強調していました。



インドの伝統衣装、工芸品の展示

休憩をはさんでの第2部は「椅子ヨガ」の紹介でした。講師は大使館専任ヨガ講師のDr.サンジェイ・クマールさん。今回は椅子に座ったままできる椅子ヨガです。クマールさんのやさしいリードで会場の参加者もその場で実践。はじめはぎこちなかった動きが徐々に大きく活発になっていきました。声を出したり笑いを誘われたり、リラックスした楽しいヨガ教室となりました。

そして最後の第3部はインド舞踏カタクダンスが披露されました。出演は前田あつこさんとカダムジャ



カニカ・アガーワルさんの講演

パンのみなさん。インドの古典舞踊は足首に鈴をつけて独特のリズムでステップを踏む情熱的なダンスです。華やかな衣装に加えてとても幻想的な踊りに思わず見入ってしまいました。

この日は平日の午後にもかかわらず、会員や市民192名と多くの参加がありました。日頃直接見聞きする機会の少ないインド文化ですが、今回は講話やパフォーマンスでリアルに触れることができ、インド文化を身近に感じられたひとときでした。



Dr.サンジェイ・クマールさんが指導する椅子ヨガ



インド舞踏のカタクダンス

ふれあい祭りが文化講演会と同時開催 NIAの活動をパネルと解説で 来場者にアピールしました

文化講演会に引き続き、中央公民館集会室でふれあい祭りが開かれました。今回のふれあい祭りは、習志野市国際交流協会各部会の活動をパネルに掲示して市民のみなさんへのPRです。文化講演会の来場者の多くが1階下の会場に足を運んでくださり、それぞれ自由に掲示を見て回っていました。

展示パネルは各部会の会員による手作りの力作で、パネルの前では、協会のボランティアの熱心な説明に聞き入っている方も少なくなく、PRに手応えを感じさせました。中には、「姉妹都市のことは知らなかった。若い人の海外経験は応援したい。ぜひ続けてほしい」との励ましや、「市内の外国人が増えていて、日本語教室の役割はこれから大きくなる。ボランティアで教えるのは意義のあることだ」などの賛同を示してくださる方、また、活動に興味を示してくださる方も見受けました。

さらに、来場者には三角クジでインドのグッズや封筒などをプレゼント。そこには笑顔が生まれていました。会場の一角にはインドの衣装や工芸品も展示され、国際色を醸し出していました。

限られた時間と空間でしたが、市民にはそれなりの関心があることを再認識するとともに、まだまだ協会が知られていない状況も見て、このような案内の機会をできるだけ増やす必要を感じました。

(報告：広報部会 秋山勝)



展示パネルに見入る来場者。手前はインドの民族衣装



インドの衣装や工芸品を展示

タスカルーサ国際姉妹都市協会新専務理事 シェリー・ドリルさんのご挨拶

タスカルーサ国際姉妹都市協会の新専務理事に就任いたしましたシェリー・ドリルです。素晴らしいリサ・キーズさんの後を継ぐ責任を担うことになり、興奮すると同時に身の引き締まる思いです。

私は、留学生や幼稚園児から12年生までの教育者、大学キャンパスの牧師、そして妻であり2人の娘と新しい義理の息子の母でもあります。それらを通して20年以上にわたってさまざまな経験を積んできました。私の人生とキャリアを通して、学問的、感情的、精神的な成長を促す個人的なつながりが変化を引き起こす力を常に信じてきました。

リサさんとは20年以上の付き合いです。ショーンドルフ（ドイツにある姉妹都市）への2度の青少年交流では、教師として付き添いを務める機会にも恵まれました。タスカルーサ出身であることを誇りに思い、市やアラバマ大学、タスカルーサ市立学校と強い協力関係を築いてきました。その経験を活かしてこの役割を担うつもりです。TSCI（タスカルーサ国際姉妹都市協



シェリーさん（左から2番目）とご家族

会）理事会、地域のパートナー、ボランティアの皆さんと協力し、この組織の重要な活動を継続するとともに、新しくエキサイティングな方法で事業を拡大・強化することを熱望しています。

TSCIの使命への変わらぬご支援に感謝いたします。これからもTSCIは、文化の架け橋となり、地域社会を豊かにする有意義なつながりを築いてまいります。よろしくお願いいたします。

世界の料理教室が開催されました 味も講師も優しいベトナムの家庭料理

坂口裕美子（文化交流部会）

2月20日(木)菊田公民館で開催された「世界の料理教室ベトナムの家庭料理」に参加しました。講師はレ・バン・タンさん、講師補助として日本語ボランティアの奈須野育美さんがご協力くださり、「ブン(麺料理)」「バインミー」「生春巻き」の3品を教えてくださいました。

「ブン」はお米で作った麺で、茹でたブンに、トマト、玉ねぎ、牛肉、調味料を入れ30分煮込んだスープを注いで作る、材料の旨味がたっぷりの優しい味わいの麺料理でした。「バインミー」はフランスパンを使ったサンドイッチ。とても彩りよく仕上がりました。



この日のメニュー。ブン（右）、バインミー（左）、生春巻き（右奥）

「習志野きらっと2024」にNI-Youthが参加 タスカルーサ経験を 市民の方々に伝えました NI-Youth

NI-Youthは習志野市国際交流協会で活動する学生および青年の組織です。2024年10月13日、「習志野きらっと2024」に参加しました。市役所駐車場の会場に設けられたNIAのブースで、「きらっと祭り」に訪れた多くの市民の方々と交流することができました。

特に、私たち高校生は昨年夏、習志野市の姉妹都市交流事業でアメリカのタスカルーサ市を訪問しましたが、その時の渡米経験について話す貴重な機会をいただきました。タスカルーサへの派遣事業にこれから参加を考えている若い方に、自分たちの体験を伝えることができましたし、タスカルーサからの高校生を受け入れた経験のあるホストファミリーの方とも同じ思いを確かめることもできました。「タスカルーサに行ってみたい」「ホストファミリーをして外国人を受け入れたい」という声を聞いて、とても嬉しく感じました。

またきらっとサンバでは、初めて会った外国の方々と英語で話もでき、楽しい時間を過ごしました。今後さらに英語学習に意欲的に取り組み、これからもユース活動に積極



前列右が講師のレ・バン・タンさん。中央が奈須野さん

「生春巻き」では、優しいバン・タンさんが、自分は食べずに人のために春巻きを包み続けてくださっていた姿がとても印象的でした。

3品の料理の他に、バン・タンさんが「チー」というベトナムのぜんざいまで振る舞ってくださり、とても豪華なランチタイムになりました。

ベトナムの食材は、地元京成津田沼駅前のワイがや通りにある食料品店「TU THAO」で購入できるそうです。

ヘルシーで身体にも優しい料理は全てとても美味しく、日頃一緒に働いているという息の合った二人のおかげで、とても温かい雰囲気の良い教室でした。バン・タンさん、奈須野さん、ありがとうございました。

的に参加する決意を新たにしました

毎年きらっと祭りには参加していましたが、今年は初めてサンバを踊り、地域の方々と協力して開催されるお祭りの楽しさを改めて実感し、感謝の気持ちでいっぱいになりました。



「習志野きらっと2024」NIAブース

第3回日本語ボランティア研修会が 開催されました

西隅政勝(日本語教室部会)

春を思わせる好天となった2月26日(水)、2024年度第3回日本語ボランティア研修会が開催されました。

今回は【外国人相談窓口から見えること 在住外国人を取り巻く環境の変化と直面する3つの壁(言葉の壁、制度の壁、心の壁)】をメインテーマに、千葉県国際交流センター国際交流担当課長、工藤弥生さんを講師にお招きして行われました。

在留資格や行政サービス等の外国人相談に関する研修テーマは2019年7月以来となり多くの方が関心を示され、出席者は43名でした。

研修は千葉県国際交流センターの紹介(主な事業)から始まり、在留資格(在留カード、在留資格一覧)、千葉県及び習志野市他在留外国人等数の現状等最新データを基にした説明があり、メインの外国人が直面する



3つの壁では十分に時間をかけて講演していただきました。特に制度の壁では「相談を受けても制度によって定められている為、目の前の相談者が困っていても解決が難しい事がある」の言葉が印象的でした。

その他外国人相談事業、事例紹介(①DV、離婚②オーバーステイ、出産)、外国人相談においてこころがけていること等、ボランティアにとっては興味深く内容の濃い研修会でした。

吉村会長のCoffee Break

第5回 イラン・イスラム共和国と日本 その1

私は2015年11月、UNESCO(国連教育科学文化機関)とイラン政府共催の「水会議」に招かれ、首都テヘランで講演しました。

その内容は東日本大震災からの復興、福島第一原発事故と汚染水対策、水教育とマスコミの関係などでした。中でも聴衆が最も興味を示したのは「日本とペルシャの歴史的な繋がりに」でした。

さて、近年で「歴史的な繋がり」で大きかった出来事は「日章丸事件」です。

1951年にイランは石油資源の国有化を宣言しました。しかし当時世界の石油利権を独占していた石油メジャーがそれに激怒しました。特に英国は中東に軍艦を派遣して、「イランに石油を買い付けに来たタンカーはすべて撃沈する」と国際社会に表明したのです。

当時イランは欧米の経済封鎖で食料も不足し、国民が貧窮していました。その時、出光興産の出光佐三社長はイランに対する「経済封鎖は国際法上の正当性はない」と判断して、イラン国民の窮状を救うことにしました。また敗戦国・日本も連合国の制裁により、石油の輸入を自由に出来ないことが経済発展の足かせとなっていました。そこで出光社長は両方を解決すべく独自のルートで石油資源の確保を決断したのです。それは極秘裏に神戸港から「日章丸・タンカー」をイラ

ンに向かわせてアーバーダン港で石油を購入。帰路は布設された機雷を避け、さらにイギリス海軍の裏をかいて日本へ運ぶというものでした。日章丸は川崎港に無事着岸しました。

この出来事は「武装をしていない民間企業が、世界第二の海軍力をもつイギリス海軍に喧嘩を売った」事件として世界中に報道されました。この勇気ある日本の行動をイランの人々はその後も忘れていなかったのです。「困ったときの友人は真の友である」と。それ以後、世界的に石油の自由貿易が始まりイランの石油輸出は増え続け、今や輸出総額の8割を占めるまでになりました。イランに親日家が多い理由の一つです。(次号に続く)

*日章丸事件、興味ある方はネット検索をご覧ください。

(吉村和就/習志野市国際交流協会会長、国連テクニカルアドバイザー)



2015年11月16-17日 テヘラン市
コンベンションセンター 大ホール
エネルギー省副大臣(右上)
GWJ吉村代表(右下)



詳しい記事はホームページをご覧ください

【発行】

習志野市国際交流協会
千葉県習志野市津田沼5-12-12
サンロード津田沼6F
〒275-0016
Tel&Fax 047-452-2650
<https://www.nia08.com/>
nia@jcom.zaq.ne.jp



【広報から】

- ◆ メールマガジンに読者登録をスクウェアの電子版「メール・スクウェア」を配信しています。無料です。配信停止も自由です。配信をご希望の方はPCメールアドレス niasquare@jcom.zaq.ne.jp まで。
- ◆ 原稿をお寄せください
イベントや活動の報告、雑感、国際交流の体験など。
投稿は事務局または niasquare@jcom.zaq.ne.jp へ。
- ◆ スクウェア編集部員を募集しています
一緒に広報活動をやってみませんか。経験不問です。